

巻頭言

精神科医と臨床研究

武田雅俊 日本精神神経学会理事

Masatoshi Takeda

多くの先輩から言われてきたことがある。「一生の仕事として精神科臨床を続けるには、若い時期に研究に打ち込むことが重要であり、そのことによって自分なりの診察の味付けができる。これがないと仕事を続けることはできない」と。精神科医としての視点を見据えて、精神科医として独自のものを持ち得ているかを問い続けることが必要だという意味であろう。精神科医として何を患者に与えているのかを問い続けることであろう。有能な精神科医であれば、患者が現実から乖離した判断をしそうになる時に、これ以上偏らないように防波堤となるであろうが、このような臨床にあって、自分の存在をかけて、患者に謙虚にそれでいて確固たる自信を持って、丁寧に説明することができるためには、自分の全体が必要となる。精神科医が、全身全霊をかけて打ち込んだ知識と技量が自然とにじみ出るものである。

自分の味付けの精神療法は、その人が一生懸命に研鑽を積んだ後に自ら生じる。心理・生理・生化学であれ、その研究領域・手法は問わない。ただその領域で一定水準以上の知識を土台にして新しい知見を創出したという経験が重要である。患者の生活の中から、一定の問題を抽出し、その問題解決のために有用なアドバイスを出せるかどうかは、治療者がどれだけ研究マインドを持ち問題解決に努力したかの経験に依存している。そのようなことを考えて、先輩諸氏は、精神科医は若い時には研究に打ち込む時期が必要だと言われたのであろう。筆者もようやく先輩諸氏が日々の臨床の合間に伝えようとしてくれたことがよくわかるようになった。精神科臨床の奥深さをようやく実感できるようになったのかもしれない。

さて今年5月には画期的なことが起こる。すべては「自分は生物学的精神医学会に育ててもらったと思っている」との三國雅彦先生(第107回日本精神神経学会大会長)の言葉から始まった。筆者も生物学的精神医学会の中で議論させてもらったことが、自分の精神科医の臨床と研究に大きな役割を果たしたと思っている。そして加藤進昌先生(第33回日本生物学的精神医学会大会長)が言われた。「5月の日本精神神経学会に合わせて日本生物学的精神医学会を開催することは、多くの精神科医に生物精神の活動を知っていただく絶好の機会ではないか」。そして両会長の英断により、精神神経学会と生物学的精神医学会の同時期・同場所開催が決定された。本年5月の生物学的精神医学会

は、「この10年をこころの科学の時代に」のテーマのもとに、東京お台場で精神神経学会に引き続き開催される。5月20日(金曜日)には参加費無料の「生物学的精神医学研修講座」や現在外国で活躍中の演者による「若手研究者育成プログラム」が準備されている。また、シンポジウムでは臨床に役立つ最新のトピックスが取り上げられる。精神神経学会に集まれる方には是非とも参加していただきたい内容である。

思い返せば、精神神経学会は患者の人権を尊重し、極端に研究を排除していた時期があった。一方、生物精神は、精神疾患の生物学的な研究を推進する学会であり、精神神経学会から遠ざけられていた一時期があった。

いまや、世界はゲノムの時代を超えて、脳科学の時代、精神疾患の時代に突入している。一方、わが国の精神医学研究は大変苦勞している。その原因のひとつは、研究予算決定の過程で、精神医学の研究は心理・社会的研究であり、生物学的研究は、神経内科・基礎が中心とする誤った二分法がインプットされてしまったことにある。これまで精神医学領域の研究については、社会・心理学的な要因が重要視され、生物学的研究の重要性が認められていなかったきらいがある。生物精神学会では、このような誤った考えを改めて、生物学的研究の重要性を訴える活動を続けている。昨年から新たに若手・学生会員の枠を設定した。若手・学生会員の年会費は半額であり、かつ、入会初年度の年会費は免除となっている。また、一般会員についても2013年の国際学会までの間は入会初年度年会費を免除することとした。

2013年6月23～27日に京都国際会議場においてThe 11th WFSBP Congress(第11回世界生物学的精神医学会国際会議)が開催される。京都大会のグランドデザインが決定され、WFSBP Congressの直前に神経科学会と神経化学会とのNeuro 2013を、最終日から重ねてWFSBP Congressを開催することとなった。Neuro 2013 5日間とWFSBP 5日間との9日間は生物学的精神医学・神経科学・神経化学の学術集会在開催されることになり、この領域の学術活動の発展に役立つものと期待されている。ゲノム科学、脳機能画像、インフォマテクスなどの研究手法を総動員して精神疾患の解明に取り組む体制を作り上げたいものである。